



東日本大震災の被災地・宮城県石巻市を追悼巡礼した
東北大の臨床宗教師養成プログラムの受講者ら＝2013
年10月15日、東北大提供

龍谷大では大学院実践真宗学
究科の在學生や修了者11人を対象
に1年間の研修を実施する。4月
下旬から本格的に授業が始まり、
今月には東北大と合同で被災地
での実習を行った。
カリキュラムには「グリーンケ
ア論研究」や「カウンセリング論
研究」、「臨床心理学研究」などの
科目が並ぶ。座学のほか、病院や

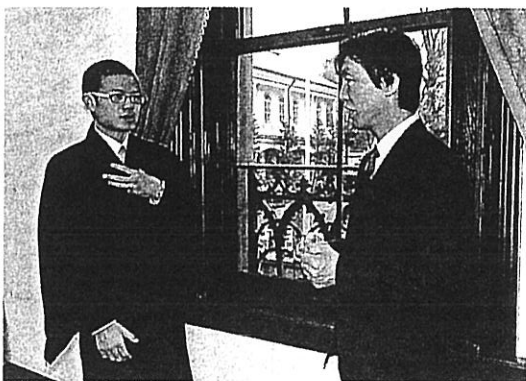
震災以降、宗教者が布教・伝道
を目的とせず、仮設住宅を訪ねて
身内を亡くした人の声に耳を傾け
たり、終末期医療の現場で死の恐
怖に直面している人々の心の支え
となったりする活動が注目を集め
た。

宗教や宗派を超え、悲しみや苦し
みを抱える人に寄り添い心のケアにあ
たる宗教者「臨床宗教師」の教育プロ
ラムが今春、龍谷大の大学院実践真宗
学研究科に開設された。東日本大震災
の後、すでに始めた東北大(仙台市)
とも連携して教育を行っている。

育て 寄り添う宗教者

苦しむ人の心のケア 龍谷大院がプログラム

東北大と連携 被災地で実習



東北大の臨床宗教師養成プログラ
ムに参加した宮崎史人さん(左)
と龍谷大の鍋島直樹教授(下京区

高齢者福祉施設での実習もある。
来年度からは応募要件を学外に
も広げる。ただし宗教者であるこ
とが条件で、宗教学を学ぶ一般の
学生らは対象にならない。

OB「悩みの共有大切、わかった」

宗教者が悲嘆のケアにあたる活
動としては、例えば欧米では「チ
ャレン」と呼ばれる聖職者が病
院などで活躍している。臨床宗教
師はこれを参考に被災者支援に取
り組んでいた医師の故・岡部健さ
んが提唱した。東北大大学院文学
研究科では2012年4月に養成
プログラムを設け、これまで57人
が修了している。

に龍谷大学院実践真宗学研究科
を修了した宮崎史人さん(26)は、
母校が始めた取り組みを歓迎す
る。

このプログラムに参加し、3月

在学中に得度し、現在は大阪市
内のグループホームで働く宮崎さ
んは、学部生の時に経験した祖母
の死がきっかけで臨床宗教師に関
心を持った。信心深かった祖母
が、病床では死の前に未練や悲し
みを度々口にした。安らかな最期
を想像しており、その姿に動揺し
つつも、「亡くなる人の苦しみに
寄り添える宗教者になりたい」と
の思いを強くしたという。

東北大のプログラムでは被災地
を追悼巡礼し、現地の宗教者から
話を聞いた。悩みを抱えた相談者
役と聞き手役に分かれての実習も
あった。最初は自分の知る教義か
ら相手の悩みにふさわしいものを見
つけ、「説得」しようとした
が、周りからの指摘でそれではい
けないと気づいたという。

「相手の悩みを正しく理解し
て、共有するのが大切だと分かっ
た」
(佐藤剛志)

プログラムで指導する鍋島直樹
教授(55)は「人が人を支えるのは
難しい。自分の限界を知り、相手
の言わんとすることに傾聴する姿
勢が重要」と話す。